松山フライブルク会会報

２０１８年９月６日 松山市
野志克仁 松山市長　　マーティン・ホーン フライブルク市長

編集・発行：松山フライブルク会

まつやま国際交流センター内

〒790-0003　松山市三番町 6-4-20　コムズ１Ｆ

2019 年

姉妹都市提携３０周年記念ツアーでフライブルクを訪れませんか

会長　八束　大三

今春は厳しい三寒四温の繰り返しで、何時、桜が開花するのかヤキモキされた方も多かったと思いますが、開花宣言後もなお寒い日もあって、この調子では４月に入ってからも長く、お花見が楽しめそうです。２０１３年２月刊行フライブルク松山会会報誌のブルガー国際部長インタビュー記事によると「１９８９年４月の松山城に於ける姉妹都市協定調印式は素晴らしい陽光と、満開の桜に彩られて寺院や塔が、さながらピンク色の海から浮かび上がっているように見える平野を見晴るかす雄大な眺めの下で挙行された」とありますから、３０年前の開花状況も今年と同様であったのではないでしょうか。

同記事に於けるブルガー部長の回想によると、「１９７７年に着任した時には既に、松山市との姉妹都市締結の話し合いが行われていて、松山市から頻繁に働きかけがあった。特に放送記者の余田さんは熱心に契約締結に関与され、ドイツからの松山市訪問客の世話をしたり、市民団体である松山フライブルク会を立ち上げたりしていた」とあります。

この記事から伺えるように、１９６１年の第１回青年海外派遣から１９７７年のオイゲンカイデル市長来松に至る最初の１６年間は言わば松山市側の「片思い」だったのが、諸先輩の努力により、当市は「対等なお付き合いの相手」として認められ、１２年後、１９８８年の姉妹都市調印に至ったのです。そして今は「ウィン、ウィンの関係を持つ良きパートナー」として交流を深めつつあります。フライブルク市にとって松山市は「距離的には最も遠いが、特別に親密な姉妹都市」（前出インタビュー記事）となっています。

さて、昨年は８月の大聖堂少年合唱団を皮切りとして１０月の経済訪問団に至るまで５つの団体、１６０名を超えるフライブルクからのお客様をお迎えいたしました。この間の会員各位のご協力に深く感謝申し上げます。

今年は当方からフライブルクを訪問する番です。特に市民訪問団の皆さんは、別れ際に「AUF WIEDERSEHEN IN FREIBURG」（フライブルクで又会いましょう）と再会を約していました。会員の皆様、この機会に是非、フライブルクを訪れませんか。前回２５周年の際には市長をはじめとしてフライブルク市民の心のこもった歓迎を受けました。今回も又、市民同志のふれあいを通じて、きっと素晴らしい思い出作りと、日常と離れた環境の中で新しい自分を発見することができるでしょう。多くの皆様の参加を心からお待ちしております。

以上

交流会にそなえてドイツ語勉強会

２０１８年９月２日、ドイツから来られる訪問団と少しでも会話が弾みますようにドイツ語勉強会を開催しました。

フライブルク大聖堂少年合唱団の受け入れ体験

大門　勝

今年度、松山市とフライブルク市が姉妹都市の調印を行ってから 30 周年を迎えました。フライブルク市のマーティン・ホーン市長を代表とする訪問団を始め、フライブルク大聖堂少年合唱団、フライブルク市民訪問団、フライブルク市経済訪問団の皆様が 30 周年記念行事の為松山市を訪問されました。

「姉妹都市提携 30 周年記念　第 6 回松山・フライブルク姉妹都市交流演奏会」も“ドイツ大聖堂の響き”連続演奏会と題され開催される事となり、関係者の方々63 名が松山市を訪問されました。松山フライブルク会でも、ホームステイの受け入れや、チケットの販売をお手伝いすることとなり、我が家でもドアヴァルト・フリドリンさん(26 才)とポーヤー・エーリックさん(25 才)のお二人をご招待する運びとなりました。

8 月 22 日受け入れ当日、コムズまで出迎えに行くと 5 階会議室は合唱団と出迎えの人々でごった返していました。お二人との対面では共に 180 ㎝を越える背の高さに驚いたのを今でも覚えています。帰りの車内で食べたいものを尋ねると「肉」との事で、脂身少な目のステーキとビールをお出ししたところ「とても美味しい」と言って召し上がって頂きました。食後は 12 時近く迄フライブルクやコンサートの話で盛り上がり、賑やかで楽しい時間を共に過ごしました。フライブルクに関しての会話では、今までの 10 数回の訪問の経験が活かされ、コミュニケーションが上手くとれた事を嬉しく思いました。

翌朝の朝食は日本食を用意したのですが、アジの開きやみそ汁、そして漬物までも「美味しい美味しい」と完食して頂き、とても嬉しく思いました。2 日目は台風の影響でコンサートが延期となり、送迎のみとなりました。家でちらし寿司、そうめん、焼肉、天ぷらその他和洋色々準備し、召し上がって頂きました。ビールも進み、楽しい時間を過ごしていたところ「お父さん、お母さんの為に歌います」と言って 3 曲も披露して頂きました。とにかくお二人のハーモニーが美しく、私達だけではもったいない「サプライズコンサート」で、とても心に響きました。

12 時過ぎまで話は尽きず、楽しい夜を過ごしました。翌朝も和食を用意したところ、きれいに完食して頂きました。食後「とても美味しかったです。ありがとうございました。」の挨拶と共に「私達の気持ちです」と感謝の言葉が綴られた絵葉書のプレゼントを頂きました。ドイツの若者らしい几帳面で誠実な応対がとても嬉しく感じました。その晩は家族で延期となっていたコンサートを楽しみました。終了後にはロビーで記念写真を撮り、別れを惜しみつつ、ドイツでの再会を約束しホームステイを終えました。

　お二人とも明るく爽やかな青年で、誠実さが溢れていました。いつまでも記憶に残る素晴らしいお二人でした。

Freiburg im Breisgau
Blick vom Münsterturm
zum Schwabentor

24.8.2018

9609

Liebe Frau Daimon, lieber Herr Daimon,

wir waren sehr auf unsere Partnerstadt Matsuyama gespannt und Sie haben uns den herzlichsten Empfang bereitet, den man sich vorstellen kann. Das werden wir nie vergessen! Außerdem haben wir beide sehr gut bei Ihnen gespeist: Oishii!!!

Wenn Sie eines Tages wieder nach Freiburg kommen, würden wir Sie auch sehr gerne zum Essen einladen und hoffen dass es Ihnen auch so gut schmecken wird, wie es uns bei Ihnen geschmeckt hat!

Domo arigatou gozaimasu und bis bald, Eric und Friedrich

Bildverlag J. Gass, Kunst- und Ansichtskarten
79212 Munzingen

姉妹都市提携３０周年記念行事

２０１８年は、姉妹都市提携３０周年の記念の年で、９月には松山市で各種　記念行事が開催されました。

フライブルク市から来訪の代表団は、２ヶ月前に就任したばかりのマーティン・ホーン新市長（何と３７歳！）を団長とする１２名で、記念レセプションのほか、記念植樹、市内の県立高校の訪問、サッカー（愛媛 FC）観戦など、さまざまなプログラムが用意されており、新市長に松山を知っていただくとともに、交流を深めました。

松山フライブルク会は、９月６日の記念レセプションに参加したほか、８日の記念植樹にも参列、その後は代表団との交流昼食会を開催し、個人的な交流も生まれていました。参加された会員の方から、原稿も頂きましたので、その様子をお感じください。

姉妹都市提携３０周年　記念植樹

２０１８年９月８日午前中、元気な雨の降る中、「まつやまRe・再来館（リサイクルカン）」に於いて記念植樹が行われました

フライブルク市使節団を道後へお迎えして

山澤　満

平成 30 年 9 月 8 日、フライブルク市の使節団の皆様と道後の「ふなや」で会食を持ちました。飛び交うドイツ語を聴きながら、３０年前に父とフライブルク市を訪ね姉妹都市提携調印式に加わったことを思い出していました。最初はお互いに遠慮していたメンバーもそれぞれのテーブルの周りで自己紹介やお互いの「まち」の話を弾ませました。松山サイドは姉妹都市交流の初期から参加しているメンバーが中心で、この 30 年間どのような交流を持ってきたのか熱く語る姿がとても印象的でした。そんな姿を見たフライブルク市のマーティン・ホーン市長（まだ若く最近市長になったばかり）が「皆さんの長年にわたる交流のお陰でフライブルク市は松山市とよい関係を持ち続けられています」と感謝の言葉を述べられました。

会食の後、少し道後のまちを見学したいということになりアテンドをさせていただきました。私が関わっている道後オンセナート 2018 の会期中ということで何人かにはアート作品を見ていただきました。また一昨年末に完成した道後の新しい温泉「飛鳥乃湯泉」も見学いただき日本の入浴文化の一端をお知らせできたと思います。また道後の商店街で熱心にお土産も買われるなど、短い時間ではありましたが道後をお楽しみいただけたこと、嬉しく感じました。「今度はゆっくり温泉に入ってみたい」「もっとアート作品を見てみたい、ドイツからもアーティストを派遣できないか？」と熱心に聞かれた方もいらっしゃって、またの機会があれば是非道後にゆっくり滞在いただき大いに杯を重ねたいと思いました。

GemeinsamesKochen（一緒に料理）

伊達栄治

春の気配を感ずる2019年3月10日、松山フライブルク会恒例の「ドイツの料理作りを楽しむ会」がコムズで開催されました。私は、ドイツのお菓子作りや料理に関心はありましたが、普段から家庭で料理を作らない為、今年も参加しないと決めていました。しかし、会のメンバーの方々から「料理を作らなくても構わないから、気軽に来てみたら」というお言葉をいただき、勇気をもって参加しました。

講師は Petit Paris（プチパリ）のオーナーシェフである近藤和之先生です。受付を済ませ席に着き、今日教わる「猟師風カツレッ(Jägerschnitzel)」と「いちごのクランプル(Erdbeerenstreusel)」のレシピに目を通して、持参したプチエプロンと三角巾を取り出し、やる気満々の姿に変装しました。

最初に、先生が料理の実演をしてくれました。非常に手際が良くて、材料を入れるタイミングも素晴らしいです。間近で一流シェフが作る料理を教わることは貴重な経験です。

次は、皆で一緒に料理を作る実習ですが、あらかじめ班別に分けられていました。テーブルを見渡すとかなりの材料が用意されています。材料等の準備に携わった方々に感謝です。

さて、時間が限られているので、効率よく料理を作るにはチームワークが大事です。スムーズに役割が決まり、私はシュニッツェルを作ります。「美味しくなるように」と念じて、ミートハンマーで豚肉が薄くなるまで叩きます。途中、調理台に先生が回ってきたので、シュニッツェルの焼き加減を確認すると、「良いですよ」という返事を頂き自信になりました。

ラストは、お楽しみの食事タイムです。班のメンバーから「美味しい」という声、声。皆で力を合わせて作った料理は格別です。食事をしながら、私は、かつてフライブルク市に駐在していた時に食べたシュニッツェルを思い出しました。懐かしい・・

そして、ドイツの作曲家ウェーバーの歌劇『魔弾の射手』の一曲で、狩人達が声高らかに狩の喜びを歌う「狩人の合唱(Jäegerchor)」も浮かびました。1630 年頃のドイツの森が舞台ですが、もしかしてその時狩人が食べたのは(Jägerschnitzel)かもしれないと想像しつつ、これぞドイツ伝統料理だと実感しました。食べ物からドイツを見てみる事で、新たなドイツの側面が見える事は楽しいです。

教わった料理は、フライブルク市民がホームステイした時に提供できればと思います。

料理を通して市民同士が交流の絆を積み重ねることも大事であります。1989年4月4日に松山城で松山市とフライブルク市が姉妹都市提携調印してから30周年の年に「ドイツの料理作りを楽しむ会」に初参加して、私にとっても記念すべき日となりました。

ドイツを知るサロン

大西　志織

２０１９年２月９日、コムズにて開催された「ドイツを知るサロン『ドイツ バロック時代の作曲家とその周辺』～J.S.バッハ・G.F.ヘンデル・G.Ph.テレマン～」に家族と参加しました。

講演をされた市川 克明先生は、母が所属しているフルート愛好家の団体の指導者で、定期コンサートでも指揮をされていることから、私にとっても身近な存在です。

市川先生からは、バッハ、ヘンデル、テレマンが活躍したのは江戸時代頃で、３人とも生まれ故郷が同じということや、バッハがテレマンの楽譜を買っていたことをお聞きしました。日本では武士が活躍していた時代に、ヨーロッパではヘンデルのメサイアを楽しんでいた人たちがいるなんて、不思議な感じがしました。そして、作曲家同士のつながりがあったことを知り、お互いが刺激を受けながら活動していたことに気づきました。

また、バッハはコーヒーをCMする曲「コーヒーカンタータ」を作っており、実際に曲を聴かせていただくことで、偉大な作曲家を身近に感じることもできました。

市川先生がクリスマスには教会でのコンサートで演奏するため、楽器を背負って自転車で移動していたお話も興味深く、ドイツでは音楽が生活により密着しているのだと感じました。

サロンの途中でいただいた美味しいドイツのお菓子と紅茶も今回のサロンとマッチしていて幸せな気持ちになりました。

お話と音楽が両方楽しめて、豊かな時間を過ごすことができました。今後も続けてお話をお聞かせいただきたいと思います。ありがとうございました。

インターンシップ

２０１８年１０月半ばから１２月初めまで、フライブルクの若い彫金師　マグダレーナ・シュヴァイツァーさんが、ワーキングホリデービザを活用して松山に滞在し、松山フライブルク会理事でもある砥部焼・白水窯の山田白水さん宅で、インターンシップを行いました。すでにドイツに帰国されたマグダレーナさんに、松山での体験や感想をいただきましたので、抜粋で掲載します。

****

私は９ヶ月を日本で過ごしましたが、私の故郷であるフライブルク市と松山市の友好関係のおかげで、その内の４０日を松山で過ごすことができました。（正確には、そのとなりの砥部町ですが…）

松山フライブルク会の会員でもある山田白水さんのお宅でホームステイし、工房での研修をすることができたのです。全てが初めてでしたが、素晴らしく貴重な体験でした。また、滞在中、日本語を勉強したり、ドイツ語を勉強したいという女の子にドイツ語のレッスンをしたり、またしまなみ海道へのサイクリングにも行きました。

何より素晴らしかったのは、日本でいつでも戻ることのできる第２の家族を得たことです。

（写真提供：山田白水さん）

３０年前の署名式など

1988 年 10 月 14 日フライブルクにて署名式
左：ベーメ市長（当時）
右：中村時雄市長（当時）

1989 年 4 月 4 日松山市にて
左：徳永昭夫会長（当時）
右：ベーメ市長（当時）

松山フライブルク会　事務局からのお願い

近年、ワーキングホリデービザを利用し、長期滞在で日本を体験したいフライブルクの若者からの問い合わせが増加しています。

そこで、松山フライブルク会では、「人材バンク登録」をすることになりました。
会員の皆さまの中で、日本の文化・技術などについて、体験・研修の受け入れが可能な方がいらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。

今後、体験のリクエストがあった際に活用させていただきます。
（例：織物、染色、和装、食文化、工芸などなど）

編 集 後 記

今年度は諸事情が重なり会報誌の発行が少し遅くなりました。
が、紙面は4ページ増量で、写真を多く取り入れ、活動内容を身近に感じていただけると思います。

中岡　富茂

松山フライブルク会のホームページも宜しくお願いします
http://www.matsuyama-freiburg.com　松山フライブルク会　検　索